

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	16104
課題名	小児胸腺過形成におけるケミカルシフト磁気共鳴イメージングの有用性
研究期間	倫理委員会承認後 ～ 2017年 12月 31日
利用する情報、検体	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：学内画像データベースに存在する画像情報 ） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	※以下の期間に収集した情報、検体が対象となります 西暦 2006年 1月 1日 ～ 2016年 7月 31日
研究の意義、目的	<p>胸腺過形成・胸腺腫と重症筋無力症との間には高い関連性があります。我々が住んでいるアジア圏では重症筋無力症の中でも特に小児例が多いとされ、小児患者における胸腺の評価は非常に重要です。</p> <p>胸腺の評価には画像検査が必須であり、特にケミカルシフト磁気共鳴イメージング(chemical shift MR imaging)が有用です。Chemical shift MR imagingは、微量な脂肪成分の検出が可能な脂肪抑制撮像法であり、微量な脂肪成分を含む胸腺過形成と含まない腫瘍性病変との鑑別が可能となります。小児は元々胸腺内脂肪成分が少なく、chemical shift MR imagingは有用ではないとされ研究対象から外れているのが現状ですが、その有用性の是非を実際の症例で検討した報告はありません。本研究の目的は、小児胸腺過形成に対する chemical shift MR imagingの有用性を検討することです。</p>
研究の方法	<p>胸腺MRIが撮像された患者の内、病理診断や胸腺の形態から胸腺過形成と診断された患者を対象とします。対象患者の年齢、性別、診断名(病理結果を含む)、画像情報【胸腺の形態(厚さ、辺縁の形態)、胸腺の信号強度]を評価します。画像情報から各患者のchemical shift ratio (CSR：脂肪抑制による胸腺の信号低下率)を算出し、CSRと年齢・性別との関連性、また、成人グループと小児グループに分け、グループ間のCSRの相違や小児グループのCSRと腫瘍のCSRを比較・検討します。</p>
その他	
個人情報について	<p>利用する情報、検体からは、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報が外部に漏えいすることはありません。研究成果発表(学会発表、学術論文への投稿)の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。</p>
問い合わせ等の窓口	<p>所属：旭川医科大学 放射線医学講座 氏名：八巻利弘 電話番号：0166-68-2572 E-mail：tyamaki@asahikawa-med.ac.jp</p>